

# 令和7年度 運動技能に関する調査結果

## 小学校

## 児童の「水泳運動(クロール, 平泳ぎ)の技能に関する調査結果」

### 1 調査の概要

- ・ **目的**：本県児童のクロール及び平泳ぎの技能実態を把握し、授業改善と行政資料に資する。
- ・ **期間**：令和7年6月2日～11月28日
- ・ **対象**：各教育事務所管内の抽出校（全小学校の約20%）の第5・6学年（疾病児童を除く）
- ・ **内容**：水泳プールでの「クロール」「平泳ぎ」

### 2 調査結果の概要

#### (1) クロールで25m以上泳げる児童の割合（5・6年生）

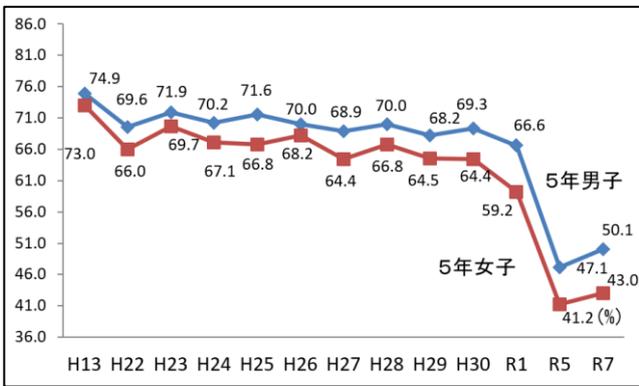


図1 クロールで25m以上泳げる児童の割合（5年生）

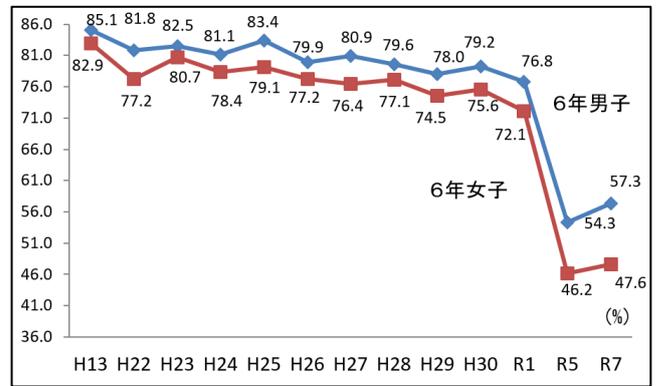


図2 クロールで25m以上泳げる児童の割合（6年生）

図1及び図2に示すとおり、クロールで25m以上泳げる児童の割合は、令和5年度に大きく低下した後、令和7年度はわずかに回復の兆しが見られる。コロナ禍による授業機会減少の影響が次第に解消されつつあり、授業再開の効果が表れていると考えられる。今後も、基礎的泳力の定着と個に応じた技能指導の充実を図ることが重要である。

#### (2) 平泳ぎで25m以上泳げる児童の割合（5・6年生）

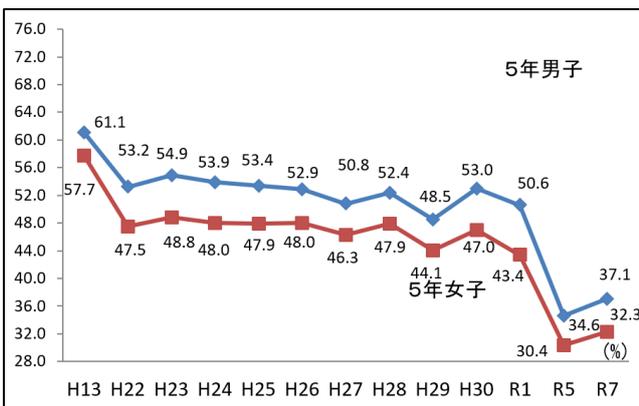


図3 平泳ぎで25m以上泳げる児童の割合（5年生）

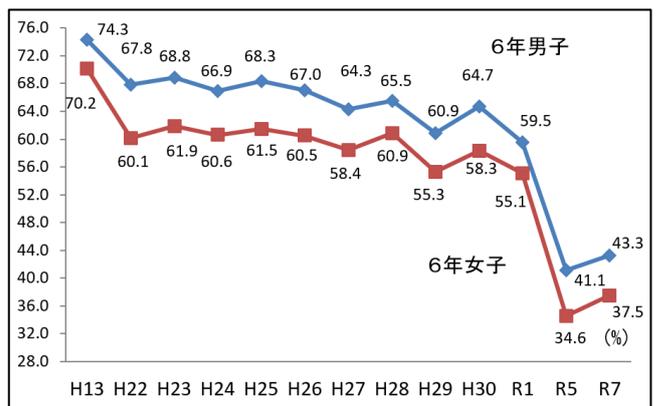


図4 平泳ぎで25m以上泳げる児童の割合（6年生）

図3及び図4に示すとおり、平泳ぎで25m以上泳げる児童の割合は、令和5年度に大きく低下した後、令和7年度はわずかに回復の兆しが見られる。一方で、クロールと比較すると依然として低い水準にあり、平泳ぎ特有の動作理解や呼吸・タイミングの習得に課題があると推察される。中学年段階から、丁寧に「かえる足泳ぎ」などを取り入れ、頭上に腕を伸ばした姿勢で、手足をバランスよく動かしながら呼吸を行うなど、「初歩的な泳ぎ」の習得を重視した指導の充実が必要である。

### (3) クロールで5m以上泳げない児童の割合（6年生）

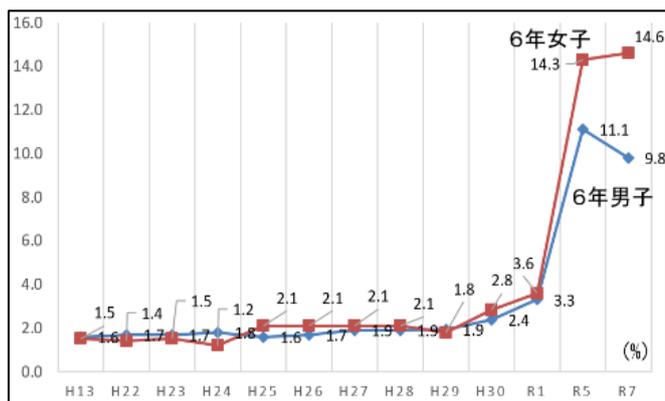


図5 クロールで5m以上泳げない児童の割合（6年生）

図5に示すとおり、クロールで5m以上泳げない児童の割合は、平成まではおおむね2%前後で推移していたが、令和に入り増加傾向を示し、令和7年度は男子9.8%、女子14.6%となった。特に女子で高い割合を示しており、水泳機会の減少の影響が伺える。水泳が苦手な児童に対しては、「水の中を移動する・もぐる・浮く」といった基礎的な運動の充実や、個々の達成感を得られる指導の工夫など、泳ぎに慣れ自信を育むための丁寧な指導が求められる。

### (4) 平泳ぎで5m以上泳げない児童の割合（6年生）

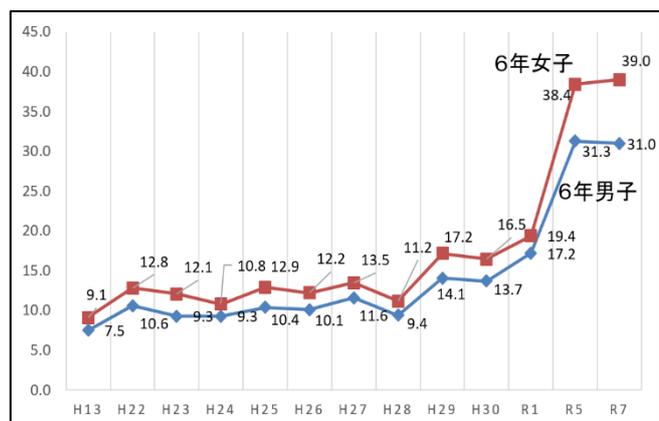


図6 平泳ぎで5m以上泳げない児童の割合（6年生）

図6に示すとおり、平泳ぎで5m以上泳げない児童の割合は、平成まではおおむね10%前後で推移していたが、令和に入り大きく増加し、令和7年度では男子31.0%、女子39.0%となった。特に女子で高い割合を示しており、クロールに比べて動作の複雑さや呼吸・手足の協応など、技能習得の難しさが影響していると考えられる。泳げない児童の増加は、水泳指導の二極化を示唆しており、今後は、基礎的な動作の習得を重視した学習展開と、呼吸動作に焦点を当てた丁寧な指導の充実が求められる。

## 3 課題の整理

- ・コロナ禍以降の授業機会減少の影響が残り、基礎的泳力の回復には時間がかかること。
- ・平泳ぎにおいて呼吸動作や手足の協応など、技能習得の難しさが課題となっていること。
- ・5m以上泳げない児童が一定数存在し、水泳技能の二極化が進行していること。
- ・水泳が苦手な児童が自信をもって取り組めるよう、基礎的動作の反復や達成感を得られる学習展開を充実させる必要があること。

## 4 今後の改善の方向

- ・児童の実態に応じた段階的な指導計画を作成し、水慣れから呼吸・浮き・進む動作へとつなげる系統的な学習展開を充実させること。
- ・平泳ぎの呼吸動作など、技能習得が難しい内容については、動作の分解練習や映像資料の活用などを通して理解を深めること。
- ・泳ぎが苦手な児童に対しては、個々の達成感を得られる指導を重視し、学習意欲を高める支援を継続すること。
- ・学校・地域・民間施設等が連携し、外部施設を活用する際には、児童生徒の発達の実態に応じた水位や施設設備の確認を行うとともに、教員とインストラクター等との役割分担や連携体制を整え、安全で安心して学習できる環境の下で水泳学習を実施すること。
- ・児童が水難時において自らの命を守る力を育むことを目指し、「安全確保につながる運動」（例：背浮きや浮き沈みなど）を確実に高学年の水泳学習に位置付け、充実を図ること。

【参考】令和の日本型学校体育構築支援事業 事例集（スポーツ庁）

第3章 学校における水難事故防止対策の強化



自分の身体で水に浮く。ライフジャケットで水に浮く。  
～「安全確保につながる運動」を柱に、水泳学習を考える～

表1 令和7年度埼玉県児童の水泳技能（クロール）に関する調査の結果（事務所別）

クロール	第5学年(男子)				第6学年(男子)			
	1 5m未満	2 5m～25m 未満	3 25m～50m 未満	4 50m以上	1 5m未満	2 5m～25m 未満	3 25m～50m 未満	4 50m以上
南部 教育事務所	250	597	424	455	141	544	453	488
	10.4%	24.8%	17.6%	18.9%	8.7%	33.5%	27.9%	30.0%
西部 教育事務所	227	475	364	437	145	487	321	519
	15.1%	31.6%	24.2%	29.1%	9.9%	33.1%	21.8%	35.3%
北部 教育事務所	47	159	58	99	33	182	87	112
	12.9%	43.8%	16.0%	27.3%	8.0%	44.0%	21.0%	27.1%
東部 教育事務所	172	318	150	272	121	270	256	343
	18.9%	34.9%	16.4%	29.8%	12.2%	27.3%	25.9%	34.6%
全 県	696	1,549	996	1,263	440	1,483	1,117	1,462
	15.5%	34.4%	22.1%	28.0%	9.8%	32.9%	24.8%	32.5%

クロール	第5学年(女子)				第6学年(女子)			
	1 5m未満	2 5m～25m 未満	3 25m～50m 未満	4 50m以上	1 5m未満	2 5m～25m 未満	3 25m～50m 未満	4 50m以上
南部 教育事務所	309	607	373	341	192	603	376	351
	19.0%	37.2%	22.9%	20.9%	12.6%	39.6%	24.7%	23.1%
西部 教育事務所	289	485	265	372	173	489	308	362
	20.5%	34.4%	18.8%	26.4%	13.0%	36.7%	23.1%	27.2%
北部 教育事務所	71	193	80	86	46	175	89	102
	16.5%	44.9%	18.6%	20.0%	11.2%	42.5%	21.6%	24.8%
東部 教育事務所	190	371	161	219	210	340	212	221
	20.2%	39.4%	17.1%	23.3%	21.4%	34.6%	21.6%	22.5%
全 県	859	1,656	879	1,018	621	1,607	985	1,036
	19.5%	37.5%	19.9%	23.1%	14.6%	37.8%	23.2%	24.4%

表2 令和7年度埼玉県児童の水泳技能（平泳ぎ）に関する調査の結果（事務所別）

平泳ぎ	第5学年(男子)				第6学年(男子)			
	1 5m未満	2 5m～25m 未満	3 25m～50m 未満	4 50m以上	1 5m未満	2 5m～25m 未満	3 25m～50m 未満	4 50m以上
南部 教育事務所	613	458	246	389	451	422	265	435
	35.9%	26.8%	14.4%	22.8%	28.7%	26.8%	16.8%	27.7%
西部 教育事務所	603	274	167	380	469	353	182	445
	42.3%	19.2%	11.7%	26.7%	32.4%	24.4%	12.6%	30.7%
北部 教育事務所	115	129	32	87	139	140	38	93
	31.7%	35.5%	8.8%	24.0%	33.9%	34.1%	9.3%	22.7%
東部 教育事務所	353	217	87	239	298	211	128	309
	39.4%	24.2%	9.7%	26.7%	31.5%	22.3%	13.5%	32.7%
全 県	1,684	1,078	532	1,095	1,357	1,126	613	1,282
	38.4%	24.6%	12.1%	24.9%	31.0%	25.7%	14.0%	29.3%

平泳ぎ	第5学年(女子)				第6学年(女子)			
	1 5m未満	2 5m～25m 未満	3 25m～50m 未満	4 50m以上	1 5m未満	2 5m～25m 未満	3 25m～50m 未満	4 50m以上
南部 教育事務所	616	446	225	286	535	359	214	341
	39.2%	28.4%	14.3%	18.2%	36.9%	24.8%	14.8%	23.5%
西部 教育事務所	669	205	127	334	503	296	160	345
	50.1%	15.4%	9.5%	25.0%	38.6%	22.7%	12.3%	26.5%
北部 教育事務所	178	135	31	86	147	110	40	102
	41.4%	31.4%	7.2%	20.0%	36.8%	27.6%	10.0%	25.6%
東部 教育事務所	399	230	87	200	448	215	174	195
	43.6%	25.1%	9.5%	21.8%	43.4%	20.8%	16.9%	18.9%
全 県	1,862	1,016	470	906	1,633	980	588	983
	43.8%	23.9%	11.0%	21.3%	39.0%	23.4%	14.1%	23.5%